

当社

# 自動車整備/SDGs/リサイクル



使用済み自動車の破砕や再資源化などを手掛けるエコネコル(佐野文勝社長、静岡県富士宮市)は、同県富士市で建設を進めていた新工場Ⅱ写真Ⅱを月内に一部稼働すると発表した。当面、本社工場で使用済み車を破砕したシュレッターダスト(ASR)から、再資源化できる素材の選別作業を行っていく。

新工場には今後、破砕作業

## エコネコル

### 富士市の新工場稼働

#### 月内に一部 本格操業は9月

などを使う生産設備を順次導入する計画となっている。9月頃に本格的な操業を始める見通しで、実現すれば破砕ができる工場が増えることとなる。

### EVなどの教育プログラム 取引先に提供

三井住友海上火災保険は、デジタル技術や電気自動車(EV)などを学ばりカレン教育プログラムを4月から取引先企業などに紹介すると発表した。電動アシスト自転車などの変化に対応したビジネスモデルを企画、推進できる

## アスドリーム オートガレージオオタ港ヶ丘店 テウーラ・アウンさん



オートガレージオオタ港ヶ丘店のサービス工場

アスドリーム(大田勝彦社長、茨城県鹿嶋市)のオートガレージオオタ港ヶ丘店(茨城県鹿嶋市)に所属する特定技能で働くテウーラ・アウンさんが、自動車整備士3級ガソリンの資格を取得した。茨城県自動車整備振興会(綿引義城会長)の講習会を受講して、2022年10月に実施された国の登録試験に合格した。現在は車検などの分解整備の仕事に携わっており、メカニックの人材不足が叫ばれる中で、貴重な人材として会社のサービス業務に貢献している。

アウンさんはミャンマーのヤンゴン出身。「23歳のころに現地にある日本の会社で働くことになり、日本語を学ぶ勉強会に通い始めた」という。2年間にわたって日本語の勉強をしていく時に、日本の自動車整備の会社からの誘いを受け、「日本の会社で整備の仕事をしたかった」との

# 流ちょうな日本語で接客も

## 3級資格取得 分解整備に奮闘



大田社長(右)とアウンさん

### 羽ばたけ整備業

が現在の仕事に携わるきっかけになった。25歳になった19年3月に来日。山梨県都留市の日本語学校で、語学と日本の生活様式について学んだ。この年の6月、アスドリームに入社。その後、オートガレージオオタ谷原店に勤務。6カ月点検やコーティング、洗車などの業務を担当した。20年12月にはボディーコーティングの資格である「キーパー1級」も取得した。そして21年5月には現在の職場であるオートガレージオオタ港ヶ丘店の勤務となった。



整備を担当するアウンさん

同社では自動車整備士の資格を持たず入社した社員は3年を過ぎたら、資格試験を受けるという取り決めがある。そのため、アウンさんも資格を取得するため、22年4月から茨城県自動車整備振興会の講習会に参加した。講習会は毎週水曜日と日曜日であった

が、受講は会社の業務とみならず、社用車で会場に通うなど、会社が全面的にバックアップする形で、資格取得に取り組んだ。10月に3級の資格を取得してからは、車検などで分解整備の仕事を担当し、「仕事のスキルをアップすることができ、充実した毎日を送っている」と笑顔を見せる。

来日しようと思ったきっかけは、ヤンゴンの自宅そばに自動車整備工場があったこと。で「自動車整備の仕事に興味を持つようになった。日本が平和で、礼儀正しい習慣があることにほめた」と説明する。

ヤンゴンで日本語を勉強しただけに、その話し方は流ちょうで、21年8月には日本語検定1級(N1)の資格も取得した。

大田社長は「バツとみただけでは日本人か、外国人かは分からない。お客さまとの接客も流ちょうな日本語で積極的

後輩外国人の指導役にも

大田社長も「国内で少子化が進む中、日本もアメリカのようにさまざまな国の人が今後働くようになってくるのではないかと。当社にはミャンマー人のほか、タイ人もいますが、同じ仏教徒のためか、コミュニケーションが上手い。将来は日本で学んだ外国人が母国へ戻って会社を立ち上げ、その下で日本人が出稼ぎする時代が来るかもしれない」と語る。

(関東支社・進藤 健之)



積極的な接客をするアウンさん